

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 9 月 9 日現在

機関番号：10102

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2021

課題番号：19H01386

研究課題名（和文）北海道・東北と樺太におけるアイヌ・和人間の北方交易圏の実態研究

研究課題名（英文）A Study on the Northern Trade Zone of Ainu and Japanese People in Hokkaido, Tohoku and Karafuto

研究代表者

百瀬 響（Momose, Hiibiki）

北海道教育大学・教育学部・教授

研究者番号：10271727

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,200,000円

研究成果の概要（和文）：2023年度に結果発表として余市町立余市図書館でシンポジウムを開催した。研究論文では樺太に関して「奉酒箸の文化要素の抽出」「アットウシの特徴抽出」、「北蝦夷地ウシヨロ場所におけるアイヌの労働力と家構成員の変化」に関わる研究、国内研究では「大山酒と北海道の関係」、「山形県善寶寺に見られる石狩からの寄進の形跡」、「近世末期ヨイチ場所における追鯨漁民の動向」、ほかに樺太アイヌ協会の協働によるサハリン州郷土博物館合同調査（2019年）とそれに伴う作品制作と合わせて、「樺太アイヌ舞踊ワークショップの実践」と一部の文化要素ではあるが現代の樺太アイヌ文化の再現・継承活動につなげることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

余市町立余市図書館でシンポジウムを開催し、地域住民らへの成果の還元を行った。樺太との交易圏研究では、「奉酒箸」、「アイヌ衣装」、「北蝦夷地ウシヨロ場所の人口動態」、国内研究では「大山酒と北海道」、「山形県善寶寺への神社寄進」、「近世末期ヨイチ場所における追鯨漁民の動向」など、新しい知見に基づいた知見を提出した。また、樺太アイヌ協会の協働による作品制作、「樺太アイヌ舞踊ワークショップ」を行い、現代の樺太アイヌ文化の再現・継承活動につなげることができた。これらの研究・文化実践は、過去の歴史的事実の解明と現代の文化維持を行えたという意味で、一定の研究実績があげた。

研究成果の概要（英文）：A symposium was held at the Yoichi Library in Yoichi Town in 2023 to present the results.

Research papers include “Extraction of Cultural Elements of Houshubashi” and “Extraction of Attusi Characteristics”, and “Changes in Ainu Labor and Household Members in Ushoro Place, Northern Hokkaido,” for Sakhalin Island and domestic research includes “Relationship between Ooyama Sake and Hokkaido,” “Traces of Donations from Ishikari at Zenpo-ji Temple, Yamagata Prefecture” and “Movements of Oinishin Fishermen in Yoichi Place at the End of Modern Period”. And a joint survey of the Sakhalin Regional Museum(2019) in cooperation with the Sakhalin Ainu Association. In addition, we conducted a joint survey of the Sakhalin Oblast Museum (2019) in collaboration with the Sakhalin Ainu Association and the accompanying production of artwork, and “the practice of Sakhalin Ainu dance workshops,” could be linked to activities to reproduce and pass on contemporary Sakhalin Ainu culture.

研究分野：文化人類学

キーワード：北海道アイヌ 樺太アイヌ 北前船 北方交易 アイヌ交易品・給与 応用人類学 文化の再現 文化教育教材

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 東北・北海道の日本海沿岸地域と樺太における「北方交易圏」の交流の実像を通時的に明らかにする上で、東北・北海道日本海沿岸地域・樺太に存在した交易圏の「北端」の資料について、(A)樺太アイヌ史資料国外調査、(B)国内史資料調査を行う。モノと人がどのように移動していたか、そして各土地でどのような変化を遂げたのかを、歴史的に明らかにすると共に、宗教・文化など多方面から研究する目的であった。さらに、現代の樺太アイヌの子孫の方々を対象に、一度途絶えた文化をどのように継承可能かを、研究者・伝承予定者双方の立場からアプローチをする予定であった。そのため、まずは(C)樺太アイヌの婚姻圏を北海道内に居住する樺太アイヌの子孫の方に調査する予定であった。

(2) 新型コロナウイルスの影響によって、国内外の調査の多くが制限された。そのため、コロナ禍でも可能な研究に切り替えた。

(A)については、樺太アイヌ資料国内調査に切り替え（ロシアからの国外史料を得ることはできなかった）、(B)国内史資料調査では、旭川・函館・山形等の博物館・資料館での文献・資料調査を行うこととなった。また、(C)の研究については、被調査らとの協議の結果、まだ公開することができないという結論に達したため、中止とした。そのため、(D)樺太アイヌ文化継承活動に変更した。内容としては、舞踊の再現を樺太アイヌの子孫の人たちと行い、テキストを作る活動となった。ほかに、樺太アイヌ奉酒箸の教材化、すなわち学校教育において使用できる教材を作成することに切り替えた。

このように当初予定からは変更となったが、東北・北海道日本海沿岸地域・樺太に存在した交易圏における人口動態の変化、モノおよび人の交換状況、アイヌと和人が交わる所に生じた様ざまな関係性を明らかにするとともに、現在の比較的小規模な集団（樺太アイヌ）に対し、「失われた」文化再興を促すための文化継承・復興活動を行うことで、新たな研究モデルを構築することを目指した。

## 2. 研究の目的

これら3つの枠組みによって、東北・北海道の日本海沿岸地域と樺太における「北方交易圏」の交流の実像を明確化することを目的としていた。しかし新型コロナウイルスの影響によって、これらの調査の多くが制限され、当初の目的とは異なる研究結果に変更せざるを得なかった。

(1) コロナ前に行い得た、(A)サハリン郷土博物館での調査を研究者・伝承者双方が行った。それによって、伝承者であるエンチュ（樺太アイヌ）協会員が調査結果に基づき復元・作成した資料を科研フォーラムで公開した。さらに、それらの資料を報告書で目録化したほか、エンチュ（樺太アイヌ）協会員がその後の文化継承活動を行う際に（すなわち自らの作品として展示等をする際に）、科研による成果物であることを示すこととした。このことで、調査に基づいた資料の作成が、伝承活動にもさらに有効であることを示すことを目的とした。

(2) 新型コロナウイルス流行の影響により、その後、国内調査に切り替えることになったため、(A)樺太アイヌ資料（衣服・奉酒箸）については、原材料から大陸と日本との交易過程を調査したり、経年変化による変容過程を調べたりすることを、研究の対象とすることにした。これらによって、交易過程がより明らかになると考えられた。

(B)国内史資料調査においては、東北との関わりについて、北前船交易を含む酒の交易、護符などから交易の一端を明確化しようとした。ほかに近世末のアイヌ・和人間の関係、場所請負制におけるアイヌ労働を通じて支払われた給与およびやり取りされた交易品（和人への売買代金との比較を含む）を近世末の余市場所や北蝦夷地ウシヨロ場所において調査することによって、アイヌ・和人の関係性の変化を確認しようとしたほか、幕末の庄内藩と石狩（浜益）派遣など、東北と蝦夷地における、物質と人間双方の動きから明らかにしようとした。

(D)樺太アイヌ文化継承活動として、物質文化の再現・再生を試みた。しかし、海外での調査ができなくなったことため、まず、かつて得られた音声・録画資料から、舞踊の再現することを試みた。エンチュ（樺太アイヌ）協会に所属する人々の協力を得て、モーショントラッキングを使用した舞踊テキストを作成することに目的とした。さらに学校教育において使用できる教材を作成することで、比較的小規模な集団に対し「失われた」文化再興を促すための有効なモデル構築を探ることを試みるほか、今後の文化継承・復興活動に生かすことを目的とした。

## 3. 研究の方法

(1) (A)樺太アイヌ資料国外調査では、サハリン州郷土博物館において研究代表者・分担者と研究協力者である様々な分野の研究者・博物館学芸員・樺太アイヌ（エンチュ）協会員が合同調査を行った。同協会員の曾祖母が所蔵していた木器資料が同館に複数所蔵されていることが判明し、これらの子孫が復元したほか、3Dプリンタを用いて資料を複製した。ま

た、各自の複製は個人が所有することにし、科研による作成であるというキャプションをつけることとした。

(2) この後、新型コロナウイルスの影響によって、(A) サハリン・ロシア地域での研究は行えなくなったため、国内調査(函館・旭川・石狩市の博物館・資料館)を敢行し、衣服の原材料ほか繊維調査および修復過程の調査、日本国内にあるサハリン多蘭泊地区(エンチウ協会の祖先が最後に居住した地域)における木器(奉酒箸)の形態分析を行った。

(B)国内史料調査では、函館・山形等の図書館・博物館・寺院などでの文献・資料調査を行った。東北との関わりについて、史料調査を通して、北前船交易を含む大山酒交易の実態、山形県にある善寶寺などへの蝦夷地・北海道商人による寄進状況・北前船についての安全渡航を願う護符の北海道における残存状況から、交易の一端を明らかにしようとした。

ほかに北蝦夷地(樺太)のアイヌ人口動態の実態を調査するとともに、北蝦夷地ウシヨロ場所のアイヌの労働力に対する給与と入手品を調べたほか、北海道では場所請負制度における、アイヌ給与および交易品についての実態調査、余市場所での和人漁民とアイヌの関係など、北海道や樺太でのアイヌ・和人間の関係性を、明らかにしようとした。

さらに庄内藩による蝦夷地(浜益)派遣の実態に関する新たな資料を得て、東北と蝦夷地の交易に加えて、近世当時の政治状況を含む関係性を明確化した。

(D)樺太アイヌ文化継承活動では、舞踊の再現を行った。エンチウ(樺太アイヌ)協会に所属する人々の協力を得て、モーショキャプチャを用いて踊りをCG化するとともに、舞踊・歌のテキストを作成することによって、今後の再現性を高めようとした。また、学校教育教材を作成し、アイヌ教育を次代に継がせるための文化教材作成を行った。

#### 4. 研究成果

(1) 本科研でのプロジェクト全体の発表については、樺太アイヌ資料国外調査を含む成果として、『北海道・東北と樺太におけるアイヌ・和人間の北方交易圏に関する実態研究』vol.1、vol.2を作成することにより、それぞれの研究の沿った成果を作成した。

(2) とくに、百瀬 響監修、坂本恵衣、工藤義衛、浅野敏昭編「【改訂版】サハリン州郷土博物館調査資料目録」および「【改訂版】サハリン州郷土博物館資料の復元・制作品目録」(どちらも『北海道・東北と樺太におけるアイヌ・和人間の北方交易圏に関する実態研究』科研報告書 vol.2)で示すことによって、今後樺太アイヌが再生可能な資料にはどのようなものがあるかを示すことができた。

これらは、さらに研究代表者である百瀬によって、「樺太アイヌ文化継承の試みについて」、「物質文化復元と3Dによる教材化の試み」などとして具体的に発表された。

研究分担者である浅野千恵は、「顕微鏡によるアイヌ衣装の繊維素材の観察と考察」、「Ainu clothes from the view point of textile science」などで、繊維素材の特性・出所(大陸・日本などの特定を含む)と経年変化を含めた修復状況の再現方法について、非破壊調査が可能なアイヌ衣服資料研究の方法論を提出した。

また、研究分担者である岩澤孝子による「映像・図書資料に基づく樺太アイヌ古式舞踊の再現」、同じく研究分担者であった松永康佑による「モーショキャプチャおよびCGを活かした樺太アイヌ古式舞踊の再現」などの一連の研究が行われた。とくに岩澤が中心となって、令和2年度・3年度に舞踊を中心としたワークショップが札幌市内で開催され、コロナ禍の中、関係者・興味を持った一般市民や学生が集まり、その成果を公開することができた。

史料調査では、研究代表者である百瀬 響によって、「余市場所アイヌ-和人交換レートに関する史論:『余市町史』『林家文書』安政4年資料の分析から」などで、幕末の余市場所におけるアイヌ・和人間の交換状況が明らかにされたほか、「ユーカラの舞台となった浜益」で、口頭伝承で語られている本州・大陸からの交易品にどのようなものがあるか示したほか、交易品がいきつく最終形態である副葬品についても、「死者に関わるアイヌの送り儀礼:モノの人為的破損をめぐる『解釈』」で扱った。このように、交易品がアイヌの所属になった後に、経済的側面のみではなく当該社会で社会的意義を持つことや、それが死後(の生活)にもつながる可能性があることを明らかにした。

研究分担者である遠藤匡俊によって、「1800年中葉の北蝦夷地クシュンコタンにおけるアイヌの人々」、「安政6~文久2(1859~1862)年の北蝦夷地ウシヨロ場所におけるアイヌの給料からみた入手品の量に関する歴史地理学的研究」などによって、一連の樺太における人口動態研究や樺太での場所請負制度の実態が明らかにされた。

また国内の史料調査では、研究協力者の工藤義衛による「大山酒について」で東北・北海道交易の酒を通じた交易実態が明らかにされ、同じく研究協力者の浅野敏昭による「近世末期ヨイチ場所における二八取漁民の動向」では、アイヌと和人漁業者との関係に関わる実態が明らかとなった。研究協力者の坂本恵衣による「山形県善寶寺に見られる石狩からの寄進の形跡」、「善寶寺のお札と龍神信仰について」などによって、蝦夷地商人の東北寺院への寄進や北前船の乗組員の宗教的信仰について、新たな知見がもたらされた。

本研究に関するまとまった学会発表では、いずれも百瀬 響が主宰した、第55回日本文化人類学大会分科会「樺太アイヌ物質文化とその復元:サハリン州郷土博物館資料調査結果

から」および第 56 回日本文化人類学大会分科会「何を遺し、何を選ぶか：樺太アイヌ文化記録・伝承の試みから」が発表された。それぞれの分科会では、研究者らとエンチウ協会員（コメンテーター）によって、失われた技術や資料が、今後どのように再現が可能か、また後者（第 56 回大会）ではとくに、学校教育教材への流用とその効果を示すことができた。

科研最終年度にあたる、令和 5 年に令和 5 年度シンポジウム「北海道・東北と樺太におけるアイヌ・和人間の北方交易圏に関する実態研究」を、余市町立図書館（zoom 公開）で開催することによって、研究成果を公開し、かつ調査地域を含む住民に対して研究成果を還元することを試みた。

以上、当初の研究予定からは変更がともなったものの、東北－北海道日本海沿岸地域－樺太に存在した交易圏におけるモノおよび人の交換状況、人口動態の変化、アイヌと和人が交わる所に生じたさまざまな関係性の一端を明らかにすることができた。くわえて、現在の比較的小規模な集団（樺太アイヌ）に対し、「失われた」文化再興を促すための文化伝承・復興活動を行う基礎が構築されたと考える。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計18件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 浅野（村木）千恵	4. 巻 12巻
2. 論文標題 顕微鏡によるアイヌ衣装の繊維素材の観察と考察 石狩の中島氏所有のアトゥシについて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 いしかり砂丘の風資料館紀要	6. 最初と最後の頁 47-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 工藤義衛	4. 巻 13
2. 論文標題 山形県鶴岡市図書館蔵「省内内警備の蝦夷地海岸図」について	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 いしかり砂丘の風資料館紀要	6. 最初と最後の頁 63-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Chie Muraki Asano	4. 巻 AIC2023
2. 論文標題 The Appearance Characteristics of the Textile Material and Color Tint of the Ainu Costume: the Differences Between the Attus of Sakhalin and Hokkaido	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Proceedings of the 15th AIC Congress, International Colour Association (ISBN: 978-0-6484724-5-2)	6. 最初と最後の頁 880-885
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 百瀬 響	4. 巻 71
2. 論文標題 余市場所アイヌ - 和人交換レートに関する史論：『余市町史』「林家文書」安政4年資料の分析から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 北海道教育大学紀要. 人文科学・社会科学編	6. 最初と最後の頁 93～108
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 百瀬 響	4. 巻 72(2)
2. 論文標題 アイヌ文化教材化の要点について(4): アイヌ服飾文化教材で何を教えるか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『北海道教育大学紀要(教育科学編)』	6. 最初と最後の頁 103-115
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 百瀬 響	4. 巻 14
2. 論文標題 「死者に関わるアイヌの送り儀礼: モノの人為的破損をめぐる『解釈』」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『北方島文化研究』 北方島文化研究	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 百瀬 響監修、坂本恵衣、工藤義衛、浅野敏昭	4. 巻 vol.2
2. 論文標題 【改訂版】サハリン州郷土博物館調査資料目録	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『北海道・東北と樺太におけるアイヌ・和人間の北方交易圏に関する実態研究』 科研報告書	6. 最初と最後の頁 21-76
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 百瀬 響編	4. 巻 vol.2
2. 論文標題 【改訂版】サハリン州郷土博物館資料の復元・制作品目録	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『北海道・東北と樺太におけるアイヌ・和人間の北方交易圏に関する実態研究』	6. 最初と最後の頁 77-96
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠藤匡俊	4. 巻 vol.2
2. 論文標題 安政6～文久2(1859-1862)年の北蝦夷地ウシヨ口場所におけるアイヌの給料からみた入手品の量に関する歴史地理学的研究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『北海道・東北と樺太におけるアイヌ・和人間の北方交易圏に関する実態研究』	6. 最初と最後の頁 112-143
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅野(村木)千恵	4. 巻 vol.2
2. 論文標題 【寄稿】顕微鏡によるアイヌ衣装の繊維素材の観察と考察 - 石狩の中島氏所有のアツトゥシについて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『北海道・東北と樺太におけるアイヌ・和人間の北方交易圏に関する実態研究』	6. 最初と最後の頁 145-167
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 百瀬響	4. 巻 1
2. 論文標題 樺太アイヌ物質文化の復元と教材化の試み	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『北海道・東北と樺太におけるアイヌ・和人間の北方交易圏に関する実態研究』	6. 最初と最後の頁 81-99
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 百瀬響	4. 巻 1
2. 論文標題 サハリン州郷土博物館資料復元制作資料目録	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『北海道・東北と樺太におけるアイヌ・和人間の北方交易圏に関する実態研究』	6. 最初と最後の頁 59-78
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂本恵衣、工藤義衛、朝雄敏昭	4. 巻 1
2. 論文標題 サハリン州郷土博物館調査資料目録	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『北海道・東北と樺太におけるアイヌ・和人間の北方交易圏に関する実態研究』	6. 最初と最後の頁 10-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠藤匡俊	4. 巻 1
2. 論文標題 1800年中葉の北蝦夷地クシュンコタンにおけるアイヌの人々	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『北海道・東北と樺太におけるアイヌ・和人間の北方交易圏に関する実態研究』	6. 最初と最後の頁 100-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤本尊子、岩澤孝子	4. 巻 1
2. 論文標題 樺太アイヌ衣服 (サハリン州郷土博物館収蔵長衣) の計測と観察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『北海道・東北と樺太におけるアイヌ・和人間の北方交易圏に関する実態研究』	6. 最初と最後の頁 121-137
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 工藤義衛	4. 巻 1
2. 論文標題 大山酒について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『北海道・東北と樺太におけるアイヌ・和人間の北方交易圏に関する実態研究』	6. 最初と最後の頁 138-155
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅野敏昭	4. 巻 1
2. 論文標題 近世末期ヨイチ場所における二八取漁民の動向	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『北海道・東北と樺太におけるアイヌ・和人間の北方交易圏に関する実態研究』	6. 最初と最後の頁 156-167
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂本恵衣	4. 巻 1
2. 論文標題 善寶寺のお札と龍神信仰について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『北海道・東北と樺太におけるアイヌ・和人間の北方交易圏に関する実態研究』	6. 最初と最後の頁 168-173
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計27件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 13件)

1. 発表者名 百瀬 響
2. 発表標題 アイヌ文化教材で何を教えるか: 教養科目「アイヌ文化論」で判明した学生によるアイヌ文化イメージの問題点
3. 学会等名 第72回東北・北海道地区高等教育研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 百瀬 響
2. 発表標題 文化要素の抽出・再現の試み 奉酒箸を中心に
3. 学会等名 「北海道・東北と樺太におけるアイヌ・和人間の北方交易圏に関する実態研究」研究会報告
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 浅野（村木）千恵
2. 発表標題 樺太アイヌ衣装の素材と色みの外観的特徴について
3. 学会等名 感性フォーラム札幌2023
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 浅野（村木）千恵
2. 発表標題 アイヌ衣装の素材の特徴・色みの特徴 樺太アットウシの特徴抽出のために
3. 学会等名 「北海道・東北と樺太におけるアイヌ・和人間の北方交易圏に関する実態研究」研究会報告
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Chie Muraki Asano
2. 発表標題 The appearance characteristics of the textile material and color tint of the Ainu costume : The differences between the Attus of Sakhalin and Hokkaido
3. 学会等名 Conference de la Association Internationale de la Couleur (AIC2023)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 .遠藤匡俊
2. 発表標題 安政6～文久2（1859～1862）年の北蝦夷地ウシヨロ場所におけるアイヌの労働力と家構成員の変化 役職者と同居者に着目して
3. 学会等名 「北海道・東北と樺太におけるアイヌ・和人間の北方交易圏に関する実態研究」研究会報告
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 工藤義衛
2. 発表標題 大山酒と北海道
3. 学会等名 「北海道・東北と樺太におけるアイヌ・和人間の北方交易圏に関する実態研究」研究会報告
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 浅野敏昭
2. 発表標題 近世末期ヨイチ場所における追鯨漁民の動向
3. 学会等名 「北海道・東北と樺太におけるアイヌ・和人間の北方交易圏に関する実態研究」研究会報告
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 坂本恵衣
2. 発表標題 山形県善寶寺に見られる石狩からの寄進の形跡
3. 学会等名 「北海道・東北と樺太におけるアイヌ・和人間の北方交易圏に関する実態研究」研究会報告
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 百瀬 響
2. 発表標題 アイヌ和人間の交換ー余市・石狩場所の比較から
3. 学会等名 「北海道・東北と樺太におけるアイヌ・和人間の北方交易圏に関する実態研究」研究会報告
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 岩澤孝子
2. 発表標題 樺太アイヌ舞踊ワークショップの実践－文化の継承を目的として
3. 学会等名 「北海道・東北と樺太におけるアイヌ・和人間の北方交易圏に関する実態研究」研究会報告
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Hibiki MOMOSE
2. 発表標題 樺太アイヌ物質文化とその復元：サハリン州郷土博物館資料調査結果から
3. 学会等名 The Association for Studies on Science & Culture -- Humans, Objects, and Phenomena Conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 百瀬 響
2. 発表標題 樺太アイヌ文化継承の試みについて
3. 学会等名 第55回日本文化人類学大会第10分科会（主催）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 百瀬 響
2. 発表標題 物質文化復元と3Dによる教材化の試み
3. 学会等名 第55回日本文化人類学大会第10分科会（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hibiki MOMOSE
2. 発表標題 What to teach of Ainu clothing patterns      Issues at Hokkaido University of Education
3. 学会等名 The Association for Studies on Science & Culture -- Humans, Objects, and Phenomena Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 百瀬 響
2. 発表標題 ユーカラの舞台となった浜益
3. 学会等名 いしかり市民カレッジ主催講座3「石狩市に残る歴史遺産」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 百瀬 響
2. 発表標題 何を遺し、何を選ぶか：樺太アイヌ文化記録・伝承の試みから
3. 学会等名 第56回日本文化人類学大会分科会F(主催)(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 百瀬 響
2. 発表標題 木器(酒箸)の調査分析・および3Dプリントにおける再現(第56回日本文化人類学大会分科会F)
3. 学会等名 第56回日本文化人類学大会分科会F(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 百瀬 響
2. 発表標題 アイヌ文化教材化の目的設定について:北海道教育大学生による理解の現状と問題点から
3. 学会等名 幌加内町教育研究会講演会(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hibiki MOMOSE
2. 発表標題 樺太アイヌ物質文化「復元」の歴史的背景
3. 学会等名 The Association for Studies on Science & Culture -- Humans, Objects, and Phenomena Conference(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 遠藤匡俊
2. 発表標題 1822(文政5)年の有珠山噴火とアイヌの人々
3. 学会等名 洞爺湖有珠山ジオパーク講座・火山マイスター養成講座(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岩澤孝子
2. 発表標題 映像・図書資料に基づく樺太アイヌ古式舞踊の再現
3. 学会等名 第55回日本文化人類学大会第10分科会(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岩澤孝子
2. 発表標題 樺太アイヌ舞踊文化の復元と普及ー動きの特性を活かした舞踊ワークショップの構築
3. 学会等名 第56回日本文化人類学大会分科会F（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松永康佑
2. 発表標題 モーショ ンキャプチャおよびCG を活かした樺太アイヌ古 式舞踊の再現
3. 学会等名 第55回日本文化人類学大会第10分科会（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松永康佑
2. 発表標題 握手状態での運動計測データに基づく再現CGと樺太アイヌ衣服の再現性について
3. 学会等名 第56回日本文化人類学大会分科会F（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 坂本恵衣
2. 発表標題 北海道内における樺太多蘭泊採集資料について
3. 学会等名 第56回日本文化人類学大会第10分科会（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Chie Muraki Asano
2. 発表標題 Ainu clothes from the view point of textile science
3. 学会等名 The Association for Studies on Science & Culture -- Humans, Objects, and Phenomena Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	遠藤 匡俊  (Endo Masatoshi)  (20183022)	岩手大学・教育学部・嘱託教授    (11201)	
研究分担者	浅野 千恵 (村木千恵)  (Asano Chie)  (00299174)	北海道教育大学・教育学部・教授    (10102)	
研究分担者	岩澤 孝子  (Iwasawa Takako)  (40583282)	北海道教育大学・教育学部・教授    (10102)	
研究分担者	松永 康佑  (Matsunaga Kosuke)  (40464391)	札幌市立大学・デザイン学部・講師    (20105)	追加：2021年12月17日

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	工藤 義衛  (Kdou Tomoe)	いしかり砂丘の風資料館	
研究協力者	坂本 恵衣  (Sakamoto Kei)	いしかり砂丘の風資料館	
研究協力者	浅野 敏昭  (Asasno Toshiaki)	よいち水産博物館	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関